

構造改革徹底推進会合（第四次産業革命）

2017年11月8日
南場 智子

＜サンドボックス＞

レギュラトリーサンドボックスは、日本の競争力を強化するために必要な施策と感じている。そして、本施策が積極的に活用されるためには、緒戦の勝利でしっかりとした実績を作ることが重要と考える。

その実績につなげるためには、しっかりと領域を見極め、行政と連携しながら規制のあり方について共に検討できるような企業を選定すべき。他国における実績も重要だが、本制度は我が国の官民が一体となって取り組んでこそ、新しいビジネスの創出・雇用の拡大・新たな規制の見直しにつなげることができる点について考慮が必要。

また、日本からグローバルで活躍する企業を増やしていくためには、国内企業の発展を支援するような取り組みも必要ではないか。

＜データ利活用＞

公共性の高いデータについては、オープン化されることで民間に積極活用され、これまで想定していなかったような新しい使われ方等が期待できる。

一方で、企業が保持しているデータについては、民業圧迫とならないよう、注意いただきたい。民間企業は、競争力の源泉となるデータを取得・蓄積するために大きな投資をしているため、その情報を開示するような取り組みについては、消極的にならざるを得ない。

それよりも、データ利活用を促進したい領域に対して、データフォーマットが統一化されるような施策の検討のほうが有益ではないかと考える。財務諸表などは、XBRL 言語の利用を義務付けることで、ビジネスレポートを電子文書化し、業務の効率化やデータの二次利用が促進されたと理解している。同様に、別の分野においても、行政に対するデータ提供のフォーマットを指定することによって、民間企業から投資を引き出し、企業を跨いだ共通フォーマットの管理・利用を促成できるのではないかと考える。もし企業間でデータ連携することによるメリットがあれば、その後、自然とマーケットメカニズムによってデータの利活用が進む。

勿論、行政・民間で管理しているフォーマットは異なり、民間企業間でも違いがあるため、フォーマットを指定する際には、事前に十分な調査・検討が必要だが、「情報銀行」や「データ取引市場」と言われるものを作りに行くのではなく、そういったサービスが生まれるためのハードルを下げる活動にこそ、より注力すべきではないかと考える。